

來スヘシト欺クモ是レ意見ニシテ事實ニ屬セサルヲ以テ欺罔トスルコトヲ得ス又金錢ヲ借用スルニ際シ之ヲ償却スルニハ某々ノ地所ヲ賣却スヘシト偽リ又ハ婦女ニ向ヒ之レト結婚スヘシト欺キ金品ヲ騙取スルカ如キハ未來ノ事實ニシテ單ニ契約タルニ過キヌト雖若シ有婦ノ夫ニシテ未タ妻ナキコトヲ告ケ以テ茲ニ出テタルトキハ即チ過去及ヒ現在ノ事實ヲ詐ルモノト云ハサルヲ得ス但シ假令詐欺ノ言辭意見若クハ未來ノ事實ニ屬スルモ之レニ現在若クハ過去ナル幾分ノ事實ヲ混合セル場合ハ尙ホ欺罔ニ出テタルモノナリトス然レトモ信用ヲ堅固ナラシムル爲メニス

ルモノハ過去若クハ現在ノ事實ヲ僞ルモ尙ホ之ヲ欺罔トスルコトヲ得ストスルハ今日學者ノ定論ニシテ又タ現行法律ノ斷例タリ

(丙)欺罔ハ必ス對手ヲシテ疑惑又ハ錯誤ヲ生セシムルコトヲ要ス故ニ詐僞ノ事實ヲ以テ人ヲ欺罔セントスルモノモ對手ニシテ之ヲ信セサルトキハ疑惑又ハ錯誤ヲ生スヘキ理由ナシ何人モ了知スヘキモノト推測スル法律ノ欺罔ハ詐僞タルコトヲ得サルモ亦是故ナリ

(第二)恐喝トハ欺罔ト異ニシテ全ク現在過去ノ事實ノ有無ニ係ハラズ意見若クハ未來ノ事實ニ依リ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムルヲ謂フ故ニ恐喝ハ第一事實タルト意見タ

ルトナ問ハス第二人ナシテ恐怖ノ念ヲ生セシムルヲ要ス  
 (甲)學者往々事實ノ無根ナルモノニアラサレハ恐喝ト云  
 フコトヲ得サル者ト爲シ人ノ重輕罪ヲ犯シタルコト  
 ナ知テ之ヲ告訴告發セント恐怖セシメタルモノハ恐  
 喝ニアラストスレトモ是レ全ク無用ノ論議ニ屬ス何  
 ントナレハ恐喝ト欺罔ト異ナル所ハ現在若クハ過去  
 ノ事實ナルト否トノ點ニ存シ其事實ノ有無如何ハ毫  
 末ノ關係ナシ即チ此場合ノ如キニ於テモ人ノ重罪輕  
 罪ヲ犯シタル事實ハ無根ニアラストスルモ之ヲ告訴  
 告發セントスルハ意見若クハ未來ノ事實タルニ過キ  
 サルヲ以テ尙之ヲ恐喝トセサルヲ得ス恐喝ノ根據タ

ル事實重罪輕罪ヲ犯シタルコトト恐喝ノ目的タル事  
 實(告訴告發ヲ爲スコト)トハ決シテ之ヲ混同スヘカラ  
 ス一ハ常ニ現在若クハ過去ニ屬シ一ハ常ニ未來ニ屬  
 ス又タ脅迫ト恐喝トノ區別ニ就テモ學者ノ間多少ノ  
 議論ナキニアラスト雖往々迂回枝葉ノ末論ニ涉リテ  
 其本旨ヲ失スルモノ少ナカラス余ハ脅迫ハ現在ニシ  
 テ其害忽チ被害者ニ及フヘキモノナラサルヘカラサ  
 ルモ恐喝ニ至リテハ單ニ意見若クハ未來ノ事實ニ屬  
 シテ毫モ現在タルコトナキモノトセム論者往々被害  
 者ニ於テ加害者ノ惡意アルヲ知ルト否トニ從ヒ恐喝  
 ト脅迫ノ區別ヲ爲スノ標準トナサントスルモノアレ

トモ未タ盡セリト云フヘカラス何トナレハ人ノ重罪  
輕罪ヲ犯シタルコトヲ知リ之ヲ告訴告發セント恐喝  
スル場合ノ如キ被害者ノ惡意アルヲ知ルト雖決シテ  
之ヲ脅迫ト云フヘカラサレハナリ

(乙)欺罔ハ現在ノ事實ニ依テ人ヲシテ疑惑ヲ生セシムル  
モノナルモ恐喝ハ意見ナルト事實ナルトヲ問ハス人  
ヲシテ恐喝ノ念ヲ生セシムルモノタルコトヲ要ス設  
例ヘハ人ノ犯罪ナキヲ了知シ乍ラ金錢ヲ與ヘサレハ  
之ヲ告發スヘシト欺クハ恐喝ナリ然レトモ對手ニシ  
テ毫末モ爲メニ恐怖スルコトナク之ヲ一笑ニ附シタ  
ルトキハ未タ恐怖ノ念ヲ生セサルモノナレハ之ヲ恐

喝ト云フコトヲ得サルカ如シ

マイエル氏著刑  
法第五六五葉  
シユツ、エー氏  
著刑法第四七  
一  
フオースタン  
氏著佛國刑  
法第五卷第三  
八  
六葉

(第三)犯罪ノ物體タルヘキモノハ有形無形ヲ問ハス他人ノ  
占有權所有權及其他一般ノ物上權ハ勿論債主權相續權及  
ヒ訴權就中借用證等ヲ包含ス我刑法ニハ「財物若クハ證書  
類ヲ騙取シ」云々ト明記スレトモ其所謂證書類ナルモノハ  
無形財產若クハ債主權等ヲ證明スルノ具タルニ過キスシ  
テ夫ノ竊盜罪ニ於ケルカ如ク有形ナル證書(公債證書ノ類)  
トシテ幾分ノ價值アル物品ヲ指スモノニアラス故ニ自己  
ノ豫メ差入レ置タル借用證ヲ騙取シ又ハ義務釋放ノ證書  
ヲ差出サシムル場合等ニ於テハ詐欺取財ノ犯罪ノ物件タ  
ルヘキモノハ無形ナル債主權ナリ然レトモ其有形ナル證

書ニ至リテハ一個ノ物件ニシテ苟モ多少ノ價值アル以上ハ即チ有形動産ナリ刑法ノ所謂證書類ニアラサルナリ  
 (第四)犯罪ノ所爲ニ就テハ我刑法ハ騙取ノ文字ヲ用ヒタルトモ詐僞罪ノ物體タルヲ得ヘキモノハ有形財産ニ止マラサルカ故ニ必スシモ奪取ノ所爲アルヘキモノニアラス債主ヲ欺キ負債釋放ノ證書若クハ借用證書ヲ交付セシメタル場合ノ知キ毫モ奪去ノ所爲アルヲ見ス純然タル理論ヨリスルトキハ詐欺罪タルノ所爲ハ單ニ他人ノ財産ヲ害スルヲ以テ足レリトスレトモ現ニ我刑法カ騙取ス云々ト明言シタル以上ハ他人ノ財産ノ害トナルヘキ方便即チ證書類ヲ自己ニ獲得スルヲ要スルモノトセサルヲ得ス故ニ現

倉富評  
 欺罔若クハ恐喝  
 ニ着手シタルノ  
 ミニテハ是亦未  
 遂犯ト爲スチ  
 得サルヘシ

行法ノ正面ヨリ解釋スルトキハ財物若クハ證書類ニ手ヲ觸レタルトキヲ以テ始テ詐欺罪ノ未遂犯トセサルヲ得サルニ似タレトモ騙取ノ文字ハ未タ以テ理論ヲ左右スルコト足ラスシテ現ニ惡意ヲ以テ欺罔若クハ恐喝ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ未タ財物若クハ證書類ヲ獲得シ又ハ之ニ手ヲ觸ルコトナキモ之ヲ未遂犯トスルハ今日己ニ其實例ニ乏シカラストス由是觀之我刑法ノ所謂騙取ナル文字ハ他人ノ財産ヲ害スルノ所爲ト其方便即チ證據トヲ混同シタルモノト謂フヘシ

(第五)斯ノ如ク詐欺罪ノ物體ハ無形財産タルコトヲ得ヘキヲ以テ其所謂惡意ナルモノハ盜罪ニ於ケルカ如ク單ニ他

各論

第四篇

人ノ物件ヲ領得スルノ意アルヲ以テ足レリトセス必ス自  
己若クハ他人ノ爲メ財産上ノ利得ヲ圖ルノ意アルコトヲ  
要ス、故ニ設ヒ他人ノ財産ヲ害スルモ財産上ノ利得ヲ圖ル  
ノ意ナキトキハ詐欺罪ヲ構成スルコトナシ、設例ヘハ復讐  
ヲ爲サンカ爲メ他人ヲ欺罔シ其財寶ヲ火中ニ投セシメタ  
ル場合ノ如シ

ベル子ル氏著刑  
法原論第五五六  
葉

〔第六〕然レトモ其被害者タルモノハ必スシモ欺罔又ハ恐喝  
セラレタル者タルコトヲ要セス設例ヘハ詐僞ノ證書若ク  
ハ已ニ無効ナル證書ヲ用ヒ不實ノ起訴ヲ爲シ勝訴ヲ得タ  
ルモノ、如キハ其欺罔セラレタルモノハ裁判官ナルモ其  
害ヲ被リタルモノハ被告人ナリ然レトモ民事訴訟ノ争ハ

第一法律上ノ争ニシテ事實ノ争ナラサルコト多ク第二設  
例ヒ事實ノ争ナルモ惡意ナキノミナラス故ラニ事實ヲ變  
更スル詐僞ノ所爲ナク又タ詐僞ノ所爲アルモ迷疑錯誤ヲ  
裁判官ノ心中ニ生セシムルコトナキ以上ハ之ヲ詐僞ト云  
フコトヲ得サルヲ以テ不實ノ起訴ハ必スシモ詐欺罪タル  
コトナカルヘシ

詐欺罪構成ノ元素ハ上來論述スル所ノ如クナルヲ以テ詐  
欺取財ト強盜若クハ恐喝取財トノ差異區別ハ別ニ之ヲ論  
スルコトヲ要セス、讀者乞フ犯罪ノ物體、手段、及所爲并ニ惡  
意ノ四點ニ就キ自ラ之ヲ講究スヘシ

第二節 詐欺罪ノ種類

〔第一〕我刑法ハ詐欺取財及ヒ恐喝取財ノ區別ヲ用ヒス共ニ之ヲ單純詐欺取財ノ罪トナシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス(第三百九十條)但シ同條第二項ニ因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス「ト云ヘルハ別ニ明文ヲ待タサル無用ノ言ナリトス、何トナレハ詐欺ハ必スシモ文書ヲ偽造スルコトヲ要セサル獨立ノ所爲タルヲ以テ之ヲ總則ノ數罪俱發例ニ照スヘキハ勿論ナレハナリ

〔第二〕欺罔恐喝ノ手段ヲ用ヒスト雖幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セ

シメタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論シ監視モ亦前項ニ同シ(第三百九十一條)

〔第三〕契約成立ノ際ニ於テハ惡意ナキトキ即チ詐欺ノ手段ナキ場合ト雖、物件ヲ販賣交換スルニ付キ其物件ヲ引渡ストキニ際シ其物質ヲ變シ分量ヲ偽リ人ニ交付シタル者ハ特ニ詐欺取財ヲ以テ論シ監視モ亦前項ニ同フス(第三百九十二條)

〔第四〕詐欺罪ノ所爲ハ他人ノ財産ヲ害スルニ在ルヲ以テ其財産ハ已ニ犯者ノ占有ニ存スルト否トヲ問ハスト雖我刑法ハ特ニ騙取ノ文字ヲ用ヒタルカ故ニ理論上純粹ノ詐欺罪ヲ以テ論スヘキモノト雖尙ホ特條ヲ以テ執法者ノ注意

ヲ喚起スルノ必要アルニ至レリ、即チ受寄ノ財物ニ關スル  
 第三百九十五條第二段ニ「若シ騙取<sup>モチニゲ</sup>拐帶其他詐欺ノ所爲アル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス」ト云ヒ犯者已ニ物件ノ占有ヲ得タル後ト雖欺罔恐喝ノ手段ヲ用ヒ其財物ヲ自己ニ所得シタルトキハ詐欺財タルコトヲ定メタリ、但シ拐帶ノ一事ハ特ニ別條ヲ要スヘキ詐欺財ノ一種タリ、何トナレハ惡意ノ發生ハ受寄前後ヲ問ハス又欺罔恐喝ノ手段アルヲ要セス荷モ受寄ノ財物ヲ拐帶シタルモノハ之ヲ詐欺取財ノ罪ニ問フヘキモノトスルモノナレハナリ

〔第五〕欺罔恐喝セラレタル者ハ必スシモ所有主ニ限ラサルヲ以テ他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換又ハ抵當典

物等有償契約ノ目的ト爲シタルトキハ所有主ヲ害スルニ至ラスト雖買主又ハ質取主ヲ害スルモノト云ハサルヲ得ズ、故ニ我刑法ニ之ヲ詐欺取財トスレトモ冒認ハ必ス欺罔ノ所爲アルヲ要スルヲ以テ特ニ別條ヲ設クルニ及ハサルカ如シ(第三百九十三條)又タ已ニ抵當典物トナシタルノ不動産タルコトヲ欺隱シ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル場合ノ如キハ自己ハ即チ所有主ニシテ更ニ所有主ヲ害スルコトナシト雖買主又ハ第二ノ質取主ヲ害スルモノナルヲ以テ共ニ詐欺取財ヲ以テ論シ監視モ亦前項ニ同フス、但シ第一ノ抵當ニ公證ヲ經ス第二ノ抵當ニ公證ヲ經タルトキハ第一第二ノ質取主共ニ其被害者ニアラス

シテ法律ノ罰スヘキモノニアラス、何トナレハ欺隱ノ語ハ  
 第二ノ質取主ニ對スルノミニアラスト假定スルモ特ニ第  
 一ノ質取主ニ對シテ之ヲ欺隱スルノ所爲アリタルトキハ  
 格別只タ之ヲ黙々ニ附シ再ヒ抵當ト爲シタルトキハ欺隱  
 ノ元素ヲ欠クヲ以テ法律ノ明文ニ適合セス又タ第二ノ抵  
 當ニ在ツテハ充分ノ公證ヲ經タル正當ノ取引ニシテ第二  
 ノ質取主ハ毫モ損害ヲ受クルモノニアラス故ニ設ヒ之ヲ  
 欺隱スルモ爲メニ第二ノ質取主ヲシテ疑惑若クハ錯誤ニ  
 陷ラシムルコトヲ得ス、語ヲ換テ之ヲ云ハ、是レ欺隱ノ無  
 効ナルモノニシテ法律ノ所謂欺隱ナルモノニアラサルナ  
 リ、故ニ予ハ法律ハ單ニ欺隱シテ云々ト明言スル以上ハ其

欺隱ノ有効無効ヲ問ハストスル皮想ノ解釋法ヲ取ルモノ  
 ニアラサルナリ  
 右數種ノ犯罪ハ已遂未遂ヲ問ハス共ニ之ヲ罰スヘキモノ  
 トスレトモ犯人第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ルト  
 キハ其刑ヲ科セス

第五章 家資分散ニ關スル罪

刑法第三百八十八條ニ曰ク家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱  
 漏シ又ハ虚偽ノ負債ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下  
 ノ重禁錮ニ處スト、又其第二項ニ曰ク情ヲ知テ虚偽ノ契約  
 ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減スト、又タ  
 財産ニアラスト雖牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若クハ分散決定



後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シテ他ノ債主ヲ害シタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトス(第三百八十九條)今此等ノ罪ニ關シテ注目スヘキ二三ノ要點ヲ示サム

〔第一〕家資分散ノ際トハ分散言渡ハ前後ヲ問ハスト雖必ス家資分散ノ事實アルコトヲ要ス故ニ苟モ分散ノ事實ニシテ生スルコトアラハ犯罪ハ已ニ分散言渡前ニ成立スルモ其罪ヲ問フニ至リテハ分散言渡ノ後ニアラサレハ分散ノ事實ノ有無ヲ知ルコト能ハサルヘシ又分散法ノ未タ完備セサル我國ニ於テハ分散前ニ於ケル時日ノ長短ハ此罪ヲ構成スルノ妨トナルコトナシト雖其甚タ久シキニ渉ルモ

ノニアツテハ殆ント惡意ノ存在ヲ證明スルコト能ハサルニ至ルヘシ

〔第二〕本罪ヲ構成スルニハ必ス惡意アルコトヲ要ス而シテ其所謂惡意トハ即チ債主ヲシテ適法ノ配分ヲ得セシメサラシメントスルノ故意ヲ云フ

〔第三〕藏匿脱漏ノ所爲ハ原因ナキ賣買抵當物ノ返還等ヲ包含ス又タ虚偽ノ負債ヲ増加スルトハ現在セサル負債ヲ認ムルノ意ナリ故ニ苟モ惡意ニシテ存スル以上ハ其契約ノ成立ノトキニ於テ已ニ本罪ノ已遂罪ヲ爲スヘキモノトス〔第四〕藏匿脱漏等ニ係ル財産ハ必スシモ自己ノ所有物タルコトヲ要セス設例ヘハ貸金ノ抵當トシテ占有スル他人ノ

財産ヲ故ナク之ヲ返却スル等ノ如シ

〔第五〕契約ノ承諾ヲ爲シタルモノハ正犯ニシテ其媒介ヲ爲シタルモノハ從犯ダリ、故ニ第一項ノ犯罪成立スルニアラサレハ第二項ノ罪モ亦成立スルコトナシ、但シ我刑法カ特ニ此場合ニ於テハ正犯ト雖一等ヲ減シ從犯ト雖二等ヲ減セサルモノトセルハ其理由アルヲ見ス

〔第六〕第三百八十九條ノ罪ハ前條ノ罪ト少シク其趣ヲ異ニセリ何トナレハ本條ノ罪ハ財産ヲ減少スルノ傾ナキモ單ニ帳簿ノ整頓ヲ紊亂スルニ過キサレナリ、故ニ貸金證書ヲ毀棄スルモ尙他ニ之ヲ證明スルノ方法アリ其貸金ノ權ハ依然トシテ存在シ毫モ財産額ニ影響セサルトキハ單ニ帳

簿ヲ毀棄スル罪タルニ過キス

第六章 贓物ニ關スル罪

強竊盜ノ贓物ナルコトヲ知ツテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加シ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス、其他上來列舉シタル財産上ノ犯罪ニ依テ得タルモノニ係ルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第三百九十九條乃至第四百一條)

〔第一〕贓物トハ所有者ヨリ云ハハ不正ニ盜取セラレ詐僞セラレ消費セラレタル物件ヲ云ヒ犯人ヨリ云ハハ不正ニ盜

取、シ、詐、偽、シ、又、ハ、消、費、シ、タル、物、件、即、チ、其、占、有、ヲ、得、タル、物、件、  
 ナ、云、フ、故、ニ、第、一、其、物、件、一、タ、ヒ、正、當、ナル、權、利、者、ノ、占、有、ニ、歸、  
 ス、ル、キ、ハ、忽、チ、贓、物、タル、ノ、資、格、ヲ、失、ヒ、第、二、金、錢、其、他、ノ、不、確、  
 定、物、ニ、ア、ラ、サル、物、件、タル、ヲ、要、ス、但、シ、其、物、品、ノ、占、有、ハ、直、接、  
 ニ、強、竊、盜、等、ヨリ、得、タル、モ、ノ、タル、ヲ、要、セ、ス、贓、物、ヲ、受、ケ、タ、  
 ル、モ、ノ、ヨリ、更、ニ、之、ヲ、受、ク、ル、モ、亦、贓、物、ナ、リ、何、ト、ナ、レ、ハ、強、竊、  
 盜、モ、一、ノ、犯、罪、ニ、シ、テ、贓、物、ヲ、受、ク、ル、モ、亦、一、ノ、犯、罪、ナ、レ、ハ、等、  
 シ、ク、犯、罪、ニ、依、テ、其、占、有、ヲ、得、タル、モ、ノ、ナ、レ、ハ、ナ、リ、又、タ、贓、物、  
 ハ、金、錢、等、ノ、不、確、定、物、タル、ヘ、カ、ラ、サ、ル、ヲ、ミ、ナ、ラ、ス、其、受、ク、ル、  
 所、ノ、物、品、ハ、必、ス、犯、罪、ニ、出、テ、タル、物、品、ト、同、一、品、ナ、ラ、サ、ル、ヘ、  
 カ、ラ、ス、一、タ、ヒ、其、物、品、ト、他、ノ、物、品、ト、交、換、シ、タル、ト、キ、ハ、交、換、

セ、ラ、レ、タル、物、品、ハ、已、ニ、贓、物、ニ、ア、ラ、ス、ト、ス

〔第二〕本罪ハ特ニ惡意アルコトヲ要セス只タ故意アルヲ以  
 テ足レリトス其贓物タルコトヲ要スルカ如キハ犯罪成立  
 ノ一條件タル事實ナリ若シ之ヲ知ラサルトキハ罪ト爲ル  
 ヘキ事實ヲ知ラサルモノニシテ總則ニ照シテ無罪トス故  
 ニ若シ他人ノ罪ヲ免カレシムルノ惡意アリタルトキハ第  
 百五十二條ノ罪トナルヘシ

〔第三〕贓物タルヲ知ツテ受クルコトヲ要ス故ニ贓物ヲ受ケ  
 タル後ニ於テ贓物タルコトヲ知りタルトキハ刑法上之ヲ  
 罪トスルコトナカルヘシ何トナレハ正當品ヲ受クルノ意  
 アルモ贓物ヲ受クルノ意ナケレハナリ

〔第四〕寄藏若クハ故買ノ所爲ハ何レモ充分ノ承諾ニ由リ贓物ノ占有ヲ得有スルモノタラサルヘカラス故ニ承諾ナク又ハ詐欺アリタルトキハ他罪ヲ構成スヘク又一時強盜等ノ爲メニ強迫セラレ其贓物ヲ運搬スルモ其占有ハ尙ホ強盜ノ手中ニ存スルヲ以テ本罪ヲ構成スルコトナシ○牙保ノ所爲ハ犯者自ラ占有ヲ得有スルコトナキモノニシテ其所爲ノ性質大ニ寄藏故買等ト異ナレリ

〔第五〕已ニ總則ニ於テ論述シタルカ如ク事後ノ從犯ナルモハアルヘカラサルヲ以テ本罪ハ特別ナル一種ノ罪トシテ刑法ノ之ヲ處罰スル所ナリ故ニ其結果ヲ指示スレハ〔第一〕裁判ニ依リ強竊盜ノ犯罪ナルコト未ダ確定セスト雖尙ホ

贓物ニ關スル本罪ヲ論スルコトヲ得ヘキヲ以テ判官ハ同時ニ盜罪アルコトヲ判定シ而シテ後本罪ヲ定ムヘシ〔第二〕強竊盜ノ罪已ニ確定シ刑ニ處セラレタル後ト雖贓物ニ關スル罪ヲ判定スルニ就テハ更ニ強竊盜ノ罪ナキコトヲ證明スルコトヲ得ヘシ〔第三〕贓物ニ關スル犯者ニ對シテハ有罪ノ言渡ヲ爲シ強竊盜ノ被告人ニ對シテハ無罪ノ言渡ヲ爲シ又ハ之ト相互ニ反對ナル言渡ヲ爲スモ素ヨリ二事ニシテ一事再理スルモノニアラス二者相抵觸スルモ毫モ顧慮スルヲ要セサルノ事ナリトス

第七章 遺失物理藏物ニ關スル罪

第一節 遺失物藏匿ノ罪

遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス、他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者亦同シ(第三百八十五條及ヒ第三百八十六條)但シ犯者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ルトキハ其刑ヲ科セス(第三百八十七條)今此定義ニ從フトキハ即チ左ノ如シ

〔第一〕遺失物トハ何人ノ占有内ニモ存セサル他人ノ所有物ヲ云フ、故ニ人ノ家中ニ忘失シタル物品ハ其家主ニ屬シ田野ニ放置シタル米穀ノ占有ハ其所有主ニ屬シ、通行人ノ衣囊ヨリ財布ヲ落失スルヲ待受ケ直チニ之ヲ拾得セントス

ルモ其通行人ニシテ尙之ヲ覺知スル間ハ占有ハ通行人ニ屬スルヲ以テ之ヲ奪フモノハ竊盜犯タルヘク又タ道路ニ散亂スル紙屑木片等ノ如キハ所有權ヲ放擲シタルモノニシテ人ノ所有物ニアラサレハ毫末モ犯罪ヲ構成スルコトナカルヘシ、而シテ斯ノ如ク占有者ナキ遺失物ノ占有ヲ獲得スルコトヲ稱シテ拾得ト云フ

〔第二〕遺失物ノ占有ヲ得ルニ當リ其物品ノ已レニ屬セサルヲ知ルコトヲ要スルモ其物品ノ何人ニ屬スルヤ否ヲ知ルヲ要セス、故ニ名宛アル紙包ヲ拾得スルモ亦本罪ヲ構成スト雖自己ノ所有物ナリト思惟シテ之ヲ拾得シタルノ後ニ至リテ他人ニ屬スルコトヲ知リタルトキ之ヲ官ニ申告セ



ナ非難スルモノアルヘシト雖論者ニシテ苟モ拾得ハ遺失物ノ占有ヲ得ルノ方法ニシテ其所爲ハ法律ノ敢テ禁スル所ニアラス而シテ所謂受寄トハ不正ノ方法ニ依ラスシテ得タル占有ヲ指示スルコトヲ了知セハ之ヲ以テ充分ノ受寄財物トスルニ足ルヘキコトヲ知ルヘシ讀者乞フ受寄罪ノ條下ニ於テ解説シタル受寄ノ解義ヲ熟讀セヨ

〔第四埋藏物ト遺失物トハ殆ト同一ナルカ如シト雖深ク法理ノ存スル所ヲ窮ムレハ其間甚シキ大差アルヲ見ルヘシ、何トナレハ己ニ論セシ如ク遺失物ハ何人モ之ヲ占有スルコトナキ物品ナレトモ埋藏物ハ否ラス必ス之カ占有ヲ有スルノ人アルヘキモノトス、殊ニ我刑法ニ於テハ埋藏物ニ

關スル罪ヲ以テ他人ノ所有地内ニ於テ掘得シタルモノニ限ルヲ以テ其物品ノ占有權ハ常ニ地主ニ在リ故ニ法律ハ遺失物ニ就テハ其物品ノ所有主ヲ保護シ埋藏物ニ就テハ地主ノ占有權ヲ保護スルヲ以テ其目的トス、今マ此原理ヲ推及スルトキハ左ノ結果ヲ生ス

(イ)埋藏物ハ己ニ占有者アルヘキモノナルヲ以テ掘取ノ所爲ハ先ツ他人ノ占有ニ屬スルモノヲ剝奪シ而シテ後之ヲ自己ノ占有ニ歸スルニ在リ故ニ若シ其物品他人ノ所有ニ係リ且ツ惡意ヲ以テ掘得シタルトキハ是即チ竊取ニシテ隱匿ノ所爲アルヲ待タス直ニ盜罪ヲ構成スヘシ然ルニ夫ノ遺失物ニ在ツテハ何人モ占有

スルモノナキモノナルヲ以テ拾得ノ所爲惡意アルモ  
 毫モ犯罪ヲ爲スコトナク只ダ拾得ノ後ニ於テ隱匿罪  
 若クハ受寄罪ヲ構成スルコトヲ得ヘキノミ  
 (ロ)埋藏物ニ關スル罪ニ於テハ法律ハ地主ノ占有權ヲ保  
 護スルノ目的ニ出テ直接ニ埋藏物品ヲ保護スルモノ  
 ニアラサルヲ以テ假令埋藏ノ物品ハ自己ノ所有物ナ  
 ルモ尙ホ此犯罪ヲ構成スヘシ設例ヘハ甲乙ノ地内ニ  
 至リ自己ノ物品ヲ掘得スルモ乙ナル地主ハ其物品ニ  
 對シテ占有權ヲ有スルヲ以テ埋藏物ニ關スル規則ニ  
 從フニアラサレハ直ニ其占有權ヲ失フコトナキノ權  
 アリ故ニ又之ニ反シ苟モ自己ノ所有地内タル以上ハ

他人ノ物品ヲ掘得スルモ其占有ハ己ニ自己ニ在ルヲ  
 以テ埋藏物ニ關スル犯罪ナシ只タ之ヲ費消シタルト  
 キニ於テ受寄罪ヲ構成スルニ過キサレヘシ  
 (ハ)占有權ニシテ苟モ地主ニ存スル以上ハ地主若クハ掘  
 得者ノ埋藏物ナルコトヲ知ルト否トニ關係スルコト  
 ナシ然レトモ若シ之ヲ知ルト否トニ依リ占有權ノ有  
 無ニ關係ヲ及ホスヘキ場合ハ此限リニアラサルナリ  
 但シ占有權ニ關スル理論ハ英米ノ法理ト獨佛ノ法理  
 ト自ラ其趣ヲ異ニシ學者間ノ一大問題タリト離事民  
 法ニ屬スルヲ以テ今茲ニ論述セス

第八章 財産毀損ノ罪



財産毀損ノ罪トハ權利ナクシテ他人ノ財産ヲ毀損スルノ  
所爲ヲ云フ(第四百十七條)

〔物體〕此犯罪ノ物體タルヘキモノハ有形ナル動産及ヒ不動  
産ニシテ金錢上ノ價格アルモノト必情上ノ價格アルモノ  
トヲ問ハス凡テ財産權ノ目的物タルコトヲ得ヘキモノヲ  
包含スレトモ其物件ニシテ價格ナキトキハ財産ヲ毀損ス  
ルノ意思ナキモノト推測スルコトヲ得ヘシ然レトモ法律  
ノ保護スル物上權ハ只タ財産權ニ限リ法鎖上ノ權利ヲ包  
含スルコトナキカ故ニ物件ノ所有主ハ其質入レ若クハ貸  
與シタル物件ニ對シ此罪ヲ犯スコトヲ得ス但シ第四百二  
十四條ノ場合ハ單ニ有形ナル證書其物ヲ毀損スルノ罪ニ

シテ其證書ノ認ムル所ノ權利ヲ毀損スルモノニアラス  
〔所爲〕毀損トハ財産ノ實質形狀若クハ外觀ヲ損害シ又ハ破  
毀スルノ所爲ヲ云フ我刑法ハ家屋物品又ハ植物等凡テ歸  
損スヘキ物體ニ就キ毀壞毀損毀棄等ノ語ヲ用ユルモ皆ナ  
此意ニ外ナラスト雖牛馬其他ノ家畜ニ就テハ之ヲ殺シタ  
ル場合ノミニ限レリ然レトモ此毀損ノ所爲タル如何ナル  
場合ヲ問ハス其財産ニ對シ有形的ノ執行ニ依リ多少其價  
格ヲ減少シ若クハ消盡セシムヘキモノヲラサルヘカラス  
設例ヘハ市價ヲ下落セシメテ財産ノ價ヲ減スルモ有形的  
ノ執行ニ出テタル毀損ニアラサルヘク又タ他人ノ物件ヲ  
毆打スルトキハ有形的ノ所爲アルモ價格ヲ減少スルコト

ナキトキハ之ヲ毀損ト云フコトヲ得ス

〔手段〕手段ハ物理的舍密的又ハ其他ノ方法タルコトヲ得ヘシ、設例ヘハ他人ノ氷室ニ空氣ヲ流通シテ之ヲ溶解セシメ硫酸ヲ通行人ノ衣服ニ散布シテ之ヲ腐蝕セシメ又ハ光線若クハ電氣ヲ以テ他家ニ貯藏スル藥品ヲ破裂セシムルカ如キハ皆ナ此犯罪ヲ構成スヘシ、但シ火力及ヒ水力ヲ用ユル場合ハ他ノ犯罪ヲ構成ス

〔犯意〕財産ヲ毀損スルノ故意アルヲ以テ足レリトス其過失ニ出ツルモノハ單ニ民事上損害賠償ノ責任アルニ止マルヘシ

〔毀損罪ノ種類及ヒ刑罰〕我刑法ニ於テ認メタル八種ノ毀損

罪及ヒ其刑罰左ノ如シ

一、家屋建造物ヲ毀損スル罪ハ一月以上五年以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス(第四百十七條)

二、家屋附屬ノ牆壁、園池ノ裝飾等ヲ毀損スル罪ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金(第四百十八條)ニ處ス

三、需用ノ植物ヲ毀損スル罪ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金(第四百十九條)

四、土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀損若クハ移轉スル罪ハ一月以上六月以下ノ重禁錮及ヒ二圓以上二十圓以

- 下ノ罰金第四百二十條ヲ附加ス
- 五、器物ヲ毀棄スル罪ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金第四百二十一條ニ處ス
- 六、牛馬ヲ殺ス罪ハ一月以上六月以下ノ重禁錮及ビ二圓以上二十圓以下ノ罰金第四百二十二條ヲ附加ス
- 七、牛馬外ノ家畜ヲ殺ス罪ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ被害者ノ告訴アルヲ要ス(第四百二十三條)
- 八、權利義務ニ關スル證書ヲ毀損スル罪ハ二月以上四年以下ノ重禁錮及ビ三圓以上三十圓以下ノ罰金第四百二十四條ヲ附加ス

### 第五編 違警罪

#### 第一章 總說

違警罪ハ其犯罪ノ度數犯者ノ人數ヨリ之ヲ調査スルトキハ實際上極メテ重大ナル關係ヲ有スヘキモノタリト雖、其各罪ノ性質及ヒ刑罰ヨリ考察スルトキハ甚タ輕微ノ犯罪ニシテ逐一之ヲ詳説スルノ必要アルヲ見ス、故ニ予ハ茲ニ專ラ學術上ヨリ只其大綱要目ヲ略述スルニ止ルヘシ

違警罪ハ已ニ論述シタルカ如ク僅カニ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處スヘキ犯罪ニシテ刑典法律及ヒ達令ヲ以テ之ヲ定ム、故ニ違警罪中ニハ法律ノ違犯タル所爲ト達令ノ違犯タル所爲トヲ包

合スルモノト知ルヘシ左ニ一般ノ違警罪ニ關スル通例ヲ示ス

〔第一〕抑モ違警罪ハ重罪輕罪ト全ク其性質ヲ異ニシ近世ノ刑法折衷主義ニ於テハ重罪輕罪ハ國家ノ正義ヲ害スルモノナレハ其ノ所罰ハ反坐ノ性質ヲ有スヘク刑罰第二ノ目的タル社會ノ利益ハ此ノ反坐ノ性質ヲ變セサル區域内即チ各刑罰ノ範圍内ニ於テノミ始メテ計畫スルコトヲ得ヘキモノトスヘキハ汎論ニ於テ己ニ詳述セリ然レトモ違警罪ハ之ニ反シ全ク社會ノ利益ヲ増進シ地方ノ平和ヲ維持スルヲ以テ其目的トシ犯者ノ正義ヲ害シ權利ヲ毀損シタルノ大小及ヒ惡意ノ輕重ニ從ヒ刑罰ヲ以テ之ニ反坐スルモ

ノコアラヌ是レ違警罪ハ過失怠慢ニ係ルモノヲ罰シ惡意ノ有無ヲ問ハサル場合多キ所以ナリ故ニ重罪輕罪タルノ性質ヲ有スヘキ違警罪ヲ設クルコトヲ得ス普國刑法カ違警罪ヲ區分シ重罪輕罪ト等シク身體財產自由名譽等ニ對スル違警罪ヲ列叙セルハ違警罪ノ性質ヲ誤リタルモノニシテ學者ノ笑ヲ招キタル所以モ亦茲ニアリ設例ヘハ犯罪ノ性質タル重罪輕罪タルヘキモノナルヲ刑法ノ欠典ヲ補ハシカ爲メニ違警罪トシテ之ヲ處分シ又ハ持兇器強盜若クハ毒殺罪ノ豫備ヲ罰スルカ爲メニ違警罪ヲ設クルカ如キハ其當ヲ得タルモノニアラス何トナレハ違警罪裁判所ニシテ此等ノ所爲ヲ處罰セント欲セハ必ス先ツ豫備ノ目的ヲ

リ、毒殺罪若シクハ強盜罪ノ事實ヲ審定セサルヘカ、ラ、サ  
 ルノ不都合ヲ發生スヘケレハナリ、然レトモ安寧警察ノ目  
 的ヲ達スル爲メ夜間刀劍等ヲ賣買スルヲ禁止シ又ハ醫師  
 ノ證明ナクシテ毒藥ヲ賣買スルモノヲ處罰スルカ如キハ  
 違警罪ノ性質ヲ害スルモノニアラス、何トナレハ此場合ニ  
 於テハ他ノ重輕罪ノ豫備トシテ之ヲ罰スルモノニアラス  
 他ノ犯罪ヲ行フノ目的アルト否トヲ問ハス一般ニ刀劍毒  
 藥賣買ノ所爲ヲ罰スルニ過キサレハナリ

〔第二〕公衆一般ノ安寧ヲ計畫スル場合ニ於テ各人ヲシテ必  
 ス其ノ規定ヲ遵守セシメサレハ其安寧ヲ維持スル能ハサ  
 ルトキ、設例ヘハ流行病及ヒ火災警察ニ關スル規則ノ如キ

ハ違警罪ノ制裁ヲ加ヘテ之ヲ強制スルコトヲ得レトモ、單  
 ニ地方一般ノ利益ヲ増進スルノ目的ニ出テタル規則ニシ  
 テ之ヲ遵守セサルモノハ自ラ巳ノ利益ヲ失ヒ又ハ之ヲ増  
 進スルコト能ハサル場合ニ於テハ違警罪ヲ以テ其違犯者  
 ヲ處分スルコトヲ得ス、設例ヘハ或ル商業上ノ利益ヲ目的  
 トスル地方組合ニ加入ヲ命スル規則ノ如キ是レナリ  
 〔第三〕此刑法(刑典)總則ニ認メタル一般ノ原理ハ違警罪ニモ  
 亦適用スヘキモノナレトモ其重輕罪ト異ナル要點ヲ覆説  
 スレハ左ノ數項ニ歸ス可シ

- 一、内國及ヒ我カ治外法權ヲ及ホシ得ヘキ外國ニ於テ犯  
 シタル違警罪ニアラサレハ其ノ罪ヲ問フコトナシ

- 二、違警罪ハ各地方ニ固有ナルモノアリ全國ヲ通シテ必  
スシモ同一ノ違警罪アルヘキモノニアラス
- 三、附加刑ハ沒收ノ外違警罪ニ適用スルモノナシ、但シ法  
律ニ明文ナシト雖實際ニ於テハ沒收ニ就テモ亦之ヲ  
違警罪ニ用ユルコトナキ慣例タルコト似タリ
- 四、違警罪ニ就テハ假出獄及ヒ復權ヲ用ヒス大赦特赦ニ  
至リテハ法律ニ明文ナキモ實際之ヲ用ユルコトナカ  
ルヘシ
- 五、違警罪ニハ特別ノ不論罪宥恕減輕自首減輕ノ例ヲ用  
ヒス其一般ノ不論罪ニ就テハ第八十三條ノ特別ヲ適  
用ス、又違警罪ニハ法律上財產ニ對スル罪アルコトナ

- 認メサル故ニ第八十六條及ヒ第八十九條ノ減等例ヲ  
用ユルコトナカルヘシ
- 六、數罪俱發ハ第一百一條ノ特例再犯加重ハ第九十三條ノ  
特例ヲ用ユ
- 七、違警罪ニハ教唆者及ヒ從犯ナシ、但シ幼者其他不能力  
者ヲ教唆シ又ハ其ノ從犯タルモノ、如キハ自ラ正犯  
タルヘキモノニシテ共犯ノ例ニ依ルヘキモノニアラ  
サルコトハ已ニ汎論ニ於テ之ヲ詳述セリ
- 八、違警罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スルノ明文ナシト雖輕罪ノ  
刑ヨリ減等シテ違警罪ノ刑ニ下ルトキハ其減輕シタ  
ル結果ヲ以テ本刑トスルヤ否ヲ考察シ之ヲ本刑トス

ル、場、合、ニ、於、テ、ハ、數、罪、俱、發、及、ヒ、共、犯、等、ハ、違、警、罪、ノ、例、ヲ、適、用、ス、ヘ、ク、若、シ、單、ニ、刑、ノ、減、輕、ニ、止、マ、リ、之、ヲ、本、刑、ト、ス、ル、コ、ト、ナ、キ、ト、キ、ハ、實、際、科、ス、ル、所、ノ、刑、ハ、違、警、罪、ノ、刑、ナ、ル、モ、仍、ホ、輕、罪、ノ、例、ヲ、適、用、セ、サ、ル、ヲ、得、ス、

第二章 刑典ニ認メタル各種ノ違警罪

刑典即チ此刑法ニ於テハ單ニ刑罰ノ輕重ヲ以テ違警罪ヲ五種ニ區分シ(第一)五錢以上五十錢以下ノ科料(第二)一日ノ拘留又ハ十錢以上壹圓以下ノ科料(第三)一日以上三日以下ノ拘留又ハ二十錢以上壹圓二十五錢以下ノ科料(第四)二日以上五日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓五十錢以下ノ科料(第五)三日以上十日以下ノ拘留又ハ壹圓以上壹圓九十五

錢以下ノ科料ニ處スヘキモノトセリ、僅カニ一日以上十日ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ナル狹少ノ範圍内ニ於テ之ヲ五種ニ區分セルハ其計算ノ精密ナルニ驚クノ外素ヨリ學理上敢テ見ルヘキ者アルニアラス又タ或ル學者及ヒ普國刑法ニ於テハ違警罪ニ孰テモ重輕罪ノ類別ト同一ナル方法ヲ採用スト雖是レ又違警罪ヲ以テ單ニ重輕罪ノ輕少ナル者ト同視スルノ淺見タルニ過キス故ニ予ハ罵詈嘲弄ノ罪(第四百二十六條)第十二條(他人ノ牛馬其他ノ獸類ヲ解放スルノ罪)他人ノ舟筏ヲ解放スル罪(官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放ツ等ノ罪)第四百二十八條(第八、十一項)並ニ他人ノ田野等ニ於テ菜菓ヲ採食シ他人ノ

田園ヲ通行スル等ノ罪(第四百二十九條第九、十五、十六、十七、十八項)等ノ如キモノト雖他ノ重大ナル犯罪ヲ豫防スル等專ラ行政上ノ目的ニ出テタルモノトナシ左ノ順序ニ依リ現行法ノ規定ヲ示ス

(第一)安寧警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ公ケノ危険ヲ豫防シ又ハ私權ノ安全ヲ保護スルモノヲ包含ス、即チ規則ヲ遵守セスシテ火藥、破裂質又ハ發火質ノ物品ヲ運搬シ又ハ貯藏シ官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ玩ヒ、蒸氣器械、烟筒等ノ建造掃除ニ關スル規則ニ違背シ崩壞セントスル家屋等ノ修理ヲ怠リ官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シ、自己ノ所有地内ニ死屍アルコトヲ知テ官署ニ申告セス又

ハ他所ニ移ス等ノ所爲(第四百二十五條第一、二、三、四、五、六、七、八、十一、十三項)人家等ノ近傍ニ於テ濫リニ火ヲ焚キ水火等ノ變ニ際シ防禦スヘキ官命ヲ肯セス、通路ノ危険ナル井溝等ニ防圍ヲ爲サス、路上ニ於テ獸類ヲ噉シ又ハ警逸セシメ發犯人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメ、狂犬、猛獸等ヲ路上ニ放チ變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬スル等ノ所爲(第四百二十六條第一、二、五、六、七、八、九項)車馬ヲ疾驅シテ行人ヲ妨害シ、制止ニ背キ群衆ノ場所へ車馬ヲ牽キ入レ夜中無提燈ニテ車馬ヲ疾驅シ出入ヲ禁シタル場所ニ出入シ及ヒ路上ノ常燈ヲ消ス等ノ所爲(第四百三十七條第三、三項及ヒ第四百二十九條第九、十三項)等是レナリ



〔第二〕營業警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シ官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ定價以上ニ販賣スル等ノ所爲第四百二十七條第八項、第四百二十八條第一項ヲ包含ス

〔第三〕健康警察ハ衛生及ヒ醫事ニ關スル行政ヲ指示スルモノナリ、此種ニ屬スル違警罪ハ健康保護又ハ傳染病豫防規則ニ違背シ不熟ノ果物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シ、禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ、醫師穩婆等故ナク急病人ノ招キニ應セス、死亡ノ申告ヲ爲サスノ埋葬シ、溝渠下水ヲ毀損シ又ハ之ヲ浚ハサルノ所爲等ヲ包含ス(第四百二十六條第三、四項、第四百二十七條第六、七、九、十項、第四百二十八條第六項)

〔第四〕建築警察及ヒ交通警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ木石ヲ道路ニ推積シ又ハ棄擲シ、私有地外ニ家屋牆壁等ヲ設ケ、官許ヲ得シテ路傍又ハ河岸ニ床店等ヲ開キ、路上ノ植木市街ノ常燈又ハ公示シタル通行禁止及ヒ指道標ヲ毀損シ、渡船橋梁等ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ通行ヲ妨ケ或ハ濫リニ之ヲ通行シ、制止ヲ肯セスシテ路傍ニ露店ヲ出シ、橋梁又ハ堤防ノ害トナルヘキ場所ニ舟筏ヲ繫キ道路ニ牛馬諸車又ハ木石等ヲ放擲シテ通行人ヲ妨ケ又ハ水路ニ舟ヲ并ヘテ通船ヲ妨害シ、道路ニ冰雪等ヲ投棄シ又ハ通路ノ掃除ヲ怠ル等ノ所爲トス(第四百二十七條第四、五、十三、十四、十五、十六項、第四百二十八條第二、三、七項、第四百二十

九條第一項乃至第十項

〔第五〕風俗警察ノ目的ニ出テタル違警罪ハ密賣淫又ハ其媒合容止ヲ爲シ、定リタル住居ナク又常業ナクシテ<sup>オカシ</sup>禮方ニ徘徊シ、違警罪ノ犯人ヲ曲庇シ、墓碑神佛ヲ汚損シ、流言浮説ヲ爲シ、又ハ符呪等ヲ以テ人ヲ惑シ路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シ其他道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シ又ハ酩酊シテ路上ニ喧噪シ若クハ醉臥スル等ノ罪ヲ包含ス(第四百二十五條第十、十二、十四項、第四百二十六條第十、十一項、第四百二十七條第十一、十二項、第四百二十八條第四、九項、第四百二十九條第十一、十二項)

第三章 刑典以外ノ違警罪

刑典即チ此刑法ニ定メタルモノ、外尙ホ他ノ法律及ヒ中央若クハ地方行政官省ノ達令(閣令、署令、府縣令、市條例)ニ於テ定メタル違警罪甚タ數多ナリ、刑法第四百三十條ハ單ニ地方ノ便宜ニヨリ定ムル處ノ違警罪ヲ犯シタルモノハ其罰則ニ從テ處斷スト云ヒ中央官署ノ定メタル違警罪ニ就テハ明言スル所ナシト雖、中央權ト地方權トヲ問ハス凡テ行政官衙ノ達令ヲ以テ定ムヘキ違警罪目ハ左ノ原則ニ據ルヘキモノトス

〔第一〕達令制定權ハ法律ノ明許若クハ默許ニ依リ始メテ中央若クハ地方官廳ニ歸スヘキモノナレトモ達令自身ハ決シテ主權者ノ認可ヲ經タルモノニアラス、故ニ法律即チ主

權者ノ認可シタル規則ト達令トハ互ニ相抵觸スルモ時ノ後ナルモノハ時ノ前ナルモノニ勝ツトノ原則ヲ適用スルコト能ハス必ス達令ヲ以テ其効力ナキモノトナシ法官ハ之ヲ無効トスルノ裁判ヲ下スコトヲ得

〔第二〕法律ノ明許ニ出テタル達令規則ハ如何ナル事項ト雖其許與セラレタル權内ニ屬スル以上ハ之ヲ制定スルコトヲ得レトモ其ノ黙諾ニ出テタル場合ハ必ス行政警察ノ範圍ニ屬スヘキ事項ニアラサレハ達令規則ヲ制定スルコト能ハサルモノト推測スルヲ當然トス市條例ニ科料ノ制裁ヲ附スルコトヲ得ヘキハ法律ノ明文ヲ以テ許容スル所ナレトモ地方ノ便宜ニ依リ定ムル所ノ其他ノ違警罪ハ法律

明治二十一年四月十七日法律第九十一條

ノ黙許ニ出ツルモノナリ刑法第四百三十條ハ單ニ法律ニ於テ地方ニ黙許シタル違警罪ヲ處分スルノ例ヲ定メタルモノニシテ同條ヲ以テ萬種ノ違警罪ヲ設クルノ權ヲ地方官署ニ委任シタルモノニアラス故ニ本篇第一章ニ於テ論述シタル原則ニ反對スル違警罪ヲ設クルカ如キハ行政警察ノ目的ニ出ツルモノニアラサルヲ以テ地方官署ノ權内ニアラス

〔第三〕刑法中ノ違警罪ト地方ノ違警罪トノ關係ハ之ヲ分解スルコト甚タ難カラス若シ地方官署ニシテ已ニ刑法ニ規定シタル違警罪ニ付刑法ノ刑ト異ナリタル刑ヲ設ケ又ハ同一ナル刑ヲ設ケタルトキハ地方官署ノ違警罪ハ無効ナ

リ、裁判官ハ地方規則ノ規定ヲ顧ミルコトナシ、單ニ刑法ノ正條ヲ適用スルニ止マルヘシ、設例ヘハ刑法第四百二十六條第四項ニ於テ健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則ニ違背シタル者ハ二日以上五目以下ノ拘留ニ處シ、又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處スヘキコトヲ規定スルニ係ハラス、地方ニ於テ該規則ヲ設ケ而シテ其制裁トシテ刑法ト同一ノ違警罪刑ヲ置キ、又ハ之ト異ナリタル刑ヲ設ケタルトキハ刑法ノ規定セル刑ヨリ重ク若クハ輕キトキハ勿論、刑法ノ刑ノ範圍内ニ於テ別ニ適當ノ刑ヲ設ケ、又ハ拘留ノミニ處シ、若クハ科料ノミニ處スヘキコトヲ定メタルトキト雖モ、此地方違警罪目ハ無効タリ、何トナレハ(第一)刑法

第四百三十條ハ刑法ニ定メタル以外ノ事項ニ關スル地方違警罪ノミヲ認メ、(第二)地方違警罪刑ニシテ刑法ト輕重ノ差アルトキハ現ニ刑法ヲ破ルモノタルヘク、又タ其範圍内ニ於テ別ニ刑ヲ定メ、又ハ拘留ノミニ處シ、若クハ科料ノミヲ科スルコトヲ定メタルトキハ刑法ニ定メタル刑ノ範圍内ニ於テハ裁判官ノ思料ニ從ヒ自由ニ刑ノ適用ヲ爲スコトヲ得ヘキ、裁判官ノ權力ヲ減縮シ、行政權ヲ以テ司法權ヲ拘束スルモノトナレハナリ

[第四]法律ノ默諾ニ依リ、地方ニ於テ制定スルコトヲ得ヘキ違警罪ハ必ス斯ク(法律若クハ此刑法)ニ於テ已ニ定メタル以外ノ事項ニ屬スルコトヲ要シ、若シ地方違警罪ヲ以テ同

一事ニ就キ法律ト同一ノ規定ヲ爲シ又ハ之ト輕重ノ差アル刑罰ヲ設ケタルトキハ法官ハ常ニ法律ヲ適用スヘキモノニシテ地方ノ達令ヲ適用スルコトアルヘカラス、設例ヘハ地方ニ於テ第四百二十八條第五項ノ劇場規則ヲ設ケ同條ト同一ノ刑ニ處シ又ハ異ナリタル一種ノ刑ニ處スヘキコトヲ定ムルモ其制裁ハ第四百二十八條ノ制裁ニシテ地方達令ノ制裁ニアラス、然レトモ地方官署ニシテ一ノ規則ヲ設ケタルニ其制裁ニシテ已ニ刑法ニ明定シタルモノナルトキハ其規則ハ刑法ノ制裁アルヘキコトヲ明言スルコトヲ妨ケス、地方達令ノ末ニ於テ此規則ニ違背シタルモノハ刑法第何々條ニ由リ所罰セラルヘシト一一條ヲ設ケル

ハ往々見ル所ニシテ其注意ハ頗ル無用ニ屬スルカ如シト雖モ亦大ニ重要ノ關係ヲ及ホスモノナキニアラス、設例ヘハ地方ニ於テ健康ヲ保護スル爲メ數十條ノ規則ヲ設ケタルコトアリトセンニ或ハ其條中眞ニ健康ヲ保護スルニ必要ナラサルモノアルヘク或ハ全ク他ノ關係ヨリ其規則中ニ包含セシメタルモノアルヘシ、而シテ地方廳ハ尙ホ此等ノ條ニ就テモ其違反者ハ刑法第四百二十六條第四項ノ刑ニ處セラルヘキコトヲ定メタルトキハ地方廳ハ此等ノ條ヲ以テ事實上健康ヲ保護スルニ必要ナル規則ト認定セルヤ明カナリ、然ルニ法官ニシテ之ヲ行政上ニ必要ナラストシ以テ其効ナキモノトスルコトアラハ是レ實ニ司法權ヲ

シテ行政權ヲ蹂躪セシムルハ端ヲ啓クナリ蓋シ其規則ノ  
 果シテ健康ヲ保護スルニ必要ナルモノナリヤ否ノ事實ヲ  
 決定スルハ地方官廳ノ權内ニ在リ上等ノ行政官署ヨリ其  
 規則ノ取消ヲ命令スルニアテサルヨリハ法官ハ決シテ此  
 事實ヲ争フコトヲ得ス行政上ノ必要アルト否トハ行政官  
 ノ判定ニ一任スヘキモノニシテ他ニ亦之ヲ決スルモノナ  
 カルヘシ

四四〇

行現 刑法各論畢

參照書目

- Austin, Jurisprudence. London 1873. (カーミンチン氏法理學)  
 Beseler, Pr. Strafgesetzbuch, Leipzig 1851. (クパーマン氏普國刑法)  
 Berner, Lehrb. d. D. Strafrechts. Leipzig 1884. (クハチナ氏刑罰原論)  
 Binding, Grundl. z. Vorlesung über Gemeines Deutsches Strafrecht. Leipzig 1884.  
 (カミンチン氏獨逸刑法講義)  
 Blanche, Etudes pratiques sur le code pénal. Paris, 1861-1872. (トナンミン氏佛國刑法實用)  
 Bishop, Criminal Law. Boston 1877. (カミンチン氏米國刑法論)  
 Choveau et Faustin-Hellie, Theorie du code pénal. Paris 1872. (フオーヌタムホリー氏  
 佛國刑法論)  
 Feder, Staatverbrechen die Hochverrath. Stuttgart 1850. (フューネン氏國事犯論)  
 Fabrice, die Lehre von Kindesabtreibung und von Kindesmord. Erlange 1868. (フム

各論

參照書目

四四一

トニク氏(殺父殺母罪論)

- Fiore, Traite de droit pénal intentionnel. Paris 1880 (ゴキール氏國際刑法)
- Gerber, Grundzuge d. D. Staatsrecht. Leipzig 1880. (ケンペル氏國法学原理)
- Hälschner, System des Pr. Strafrechts. (ケンペル氏普國刑法)
- Halleck, International Law. London 1876. (ケンペル氏國際法)
- Hausner, Zweikampf. Wien 1880 (ケントネル氏決闘論)
- Holtzendorf, Handbuch d. D. Strafrechts 1871. (ケンペル氏獨逸刑法)
- Holtzendorf, Encyclopedie der Rechtswissenschaft. Leipzig 1882. (ケンペル氏  
英辭彙編)
- Holland, Jurisprudence. Oxford 1882. (ホーランド氏法理學)
- Holmes, Common Law. Boston 1881. (ホムズ氏英美習慣法)
- Horch, Verbrechen des abtreibung, Mainz 1878. (ホルク氏墮胎罪論)

- Knitschky, Verbrechen des Hochverrath. Jenu 1874. (クニツキ氏大逆罪論)
- Kurz, Kindesmord. Leipzig 1860. (ケルツ氏子殺罪論)
- May, Criminal Law. Boston 1881. (メイ氏米國刑法)
- Mayne, Comm. on Indian Penal Code, 1884. (メイン氏印度刑法註解)
- Meyer, Lehrb. d. D. Strafrechts 1882. (マイヤー氏獨逸刑法論)
- Oppenhoff, Strafgesetzbuch. Berlin 1885. (オペンホッフ氏獨逸刑法)
- Oslausen, Kom. zur St. G. B. 1880. (オスラウセン氏刑法註解)
- Ortran, Eléments de droit pénal. Paris 1875. (オラン氏佛國刑法原論)
- Puchelt, Das Strafgesetzbuch 1872. (プケルト氏刑法)
- Roesler, Das sociale Verwaltungsrecht 1872. (ロズレル氏社會行政法論)
- Rogron, Les codes française expliqués. Paris 1870. (ロロン氏佛國法典註解)

Russel, Crimes and Misdemeanors. London 1865. (ラッセル氏重罪論)  
 Rubo, Komm. ib. d. Strafgesetzbuch. 1870. (ルーボ氏刑法註解)  
 Stephen, Digest of the Criminal Law. London 1887. (スティーブン氏英國刑法)  
 Stephen, History of the C. L. of England. London 1883. (スティーブン氏英國刑法史)  
 Starling, Commentaries on Indian Criminal code and procedure. London 1877. (スターリング氏印度刑法及罪法註解)  
 Schwarze, Komm. z. D. St. G. B. 4. Anf. (シュワルツェ氏獨逸刑法註解)  
 Tissot, L'étude du droit pénal. Paris 1874. (チソット氏佛國刑法論)  
 Wharton, Homicide. 2nd Ed. (ワートン氏殺人罪論)  
 Wharton, Criminal Law. Phila 1872. (ワートン氏米國刑法)  
 Zucker, Amtsverbrechen. Prag 1870 (ツッカー氏職罪論)

明治二十一年五月十五日版權免許  
 明治二十一年五月廿日第一版出版  
 明治二十二年三月廿八日第二版印刷  
 明治二十二年三月三十日第二版出版

定價金壹圓六拾錢

版權  
 所有

著者兼發行人  
 江木 衷

東京神田區今川小路二丁目十六番地

印刷人  
 坪内直益

東京々橋區銀座四丁目

發行所  
 三 聞社

東京神田區一ツ橋通り町

同  
 斐

17  
 4  
 175



大 賣 捌 所

東京神田區裏神保町

明 法 堂

同 神田區表神保町

開 新 堂

同 神田區表神保町

日 本 書 籍 會 社

同 日本橋區本石町三丁目

博 文 館

同 神田區錦町

時 習 社

同 本郷區本郷一丁目

有 成 閣

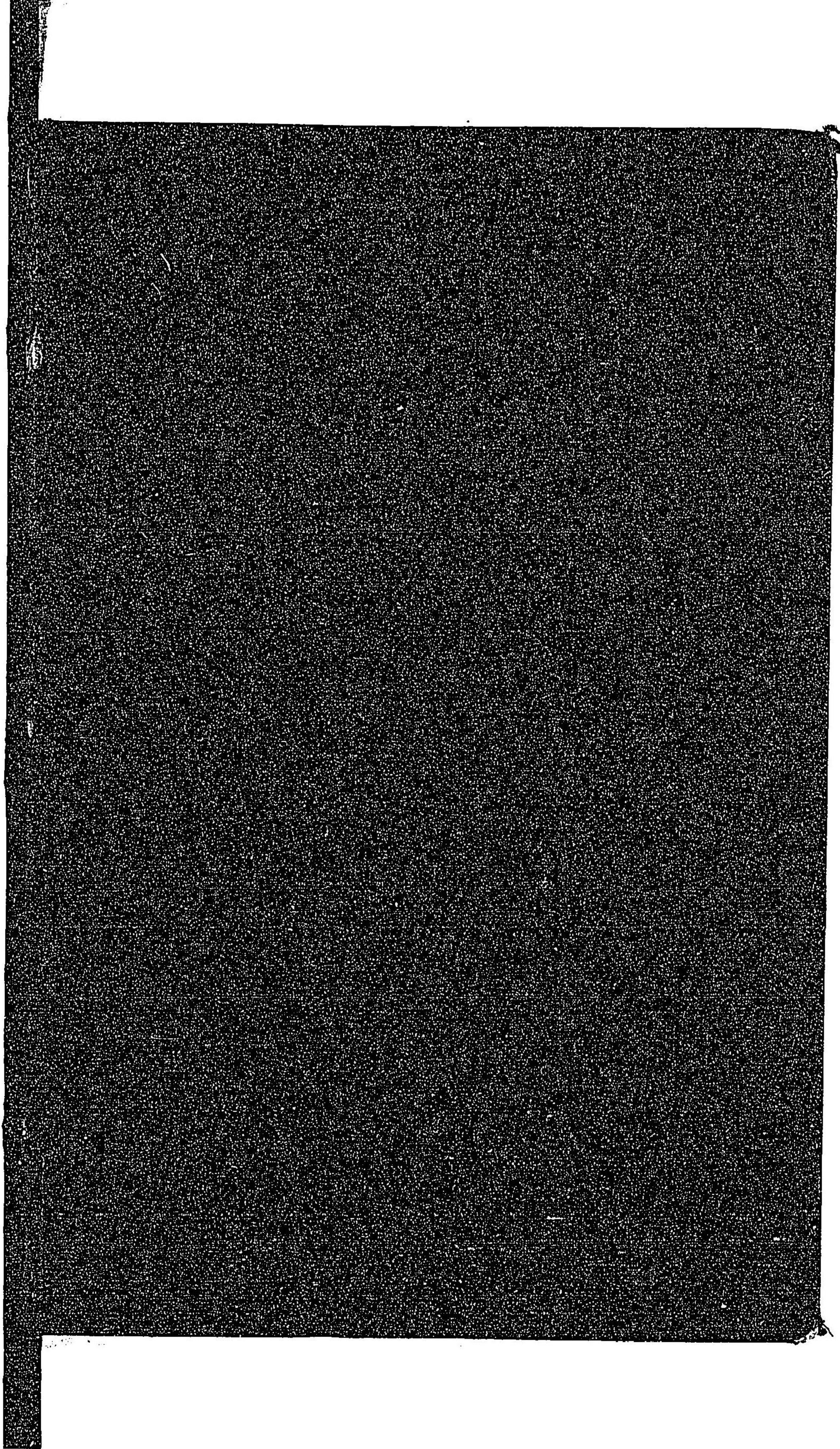
同 日本橋區通鹽町

東 海 書 館

大阪本町四丁目

岡 島 眞 七





17  
175

035974-000-8

17-175

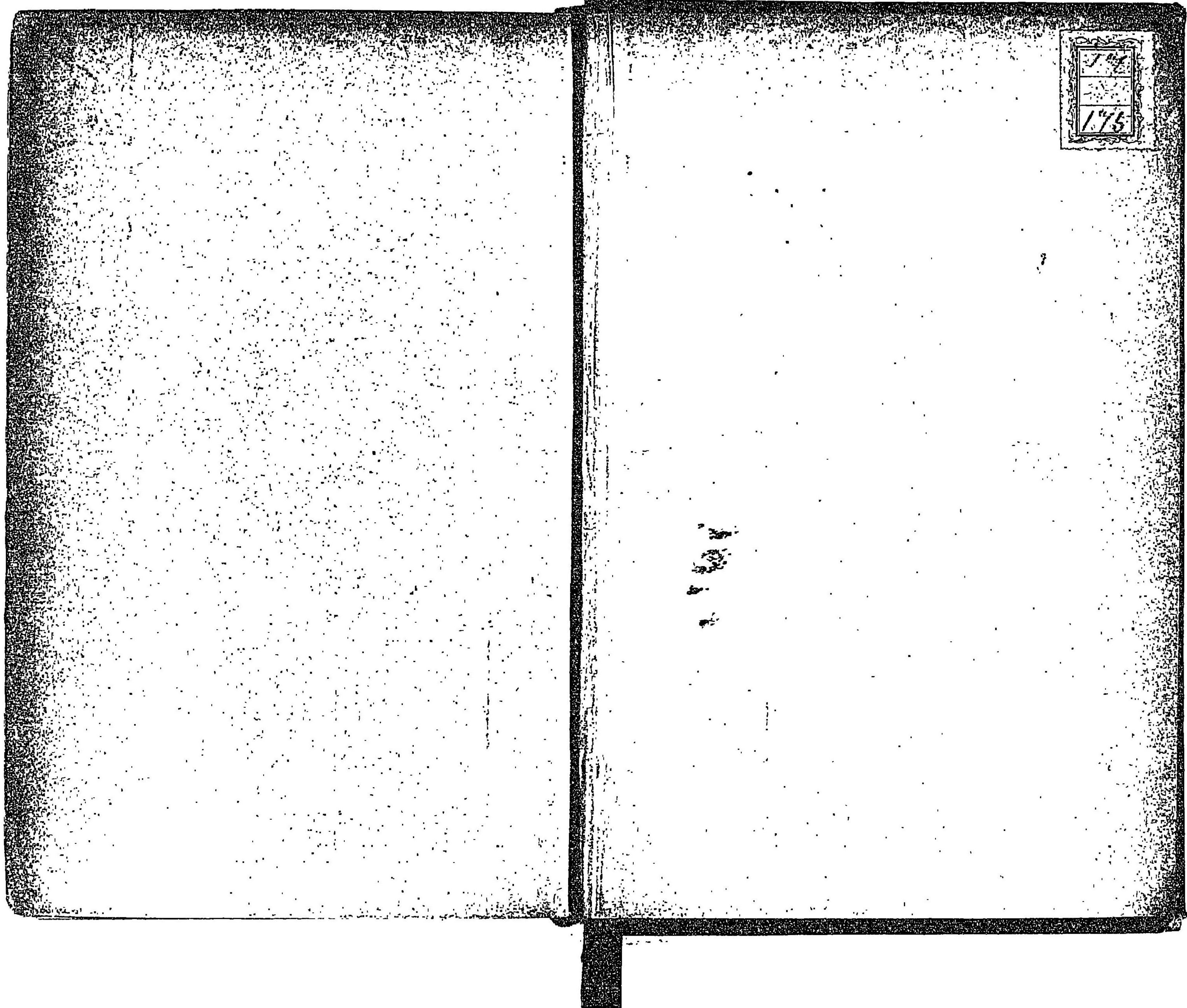
現行刑法各論

江木 衷 / 著

M22

BBP-0585





175